

つばさ川柳

願法みつる編（158号）

新型コロナの変異株の増殖という事態は、人類に何を語りかけているのでしょうか。その時に当たっても、戦火を交える国もあり、五輪に集おうという国もあります。川柳人には、冥土への土産話が尽きないですね。

『自由句』

油断した脳梗塞に攻められる

末田 洋一

退院に少し背負った後遺症

谷井 修平

焦らずに生きる意欲を奮い立て

屋根裏で故郷を思うニシキヘビ

蜂巢 徹

つばさ会次世代担う5G

公園に人待つ姿ちらりほら

変異株仕切り直しだハツケヨイ

山や谷あって相撲の十五日

対番の友の消息知る訃報

堀内今一步

頑張りが未練に見える世代の差

喜寿傘寿何時しか若い人のこと

若松 靖夫

前屈みゴミ拾い苦の歳となり

同性婚命繋がる術は無し

岡本詔一郎

ゴールデンコロナ禍騒ぎ鉄もさび

無理祟り弱いところが騒ぎ出す

事故の度反省効いて寿命伸び
苦しみは元を正せばさぼりから
消毒を真面目にやって手が荒れる
さざ波と言った世間に高い波
適当に内輪で決める適正化
夢枕腹から笑う声届く
弱い者いじめに地蔵涙する
役人の本音絵になり詩になり

佐原 利幸

願法みつる

課題句『人間』

願法みつる選

ミスのない人に会いたい俗世間
人と人時勢がアイダ拵げさせ
人として人一倍の悔いを積み
鼻メガネ見て見ぬ振りも年の功
人の世を笑って泣いて夢芝居
間をとって付き合いの技冴える人
コロナ禍で燻り出される人の性
軸 人並みを半身で交差して他人

佐原 利幸

蜂巢 徹

岡本詔一郎

谷井 修平

末田 洋一

若松 靖夫

堀内今一步

願法みつる

三神忌の高点句鑑賞

その二

大野 征子

客 見くびった雑魚の一矢が致命傷
客 一抜けた席に誤算が吹き溜まる
客 逃げ水に翻弄されていた邪心
客 村が市になり歳時記が痩せてゆく

織田 順子

山口 早苗

新谷みのり

西瀉賢一郎

人 ドラフトの金の卵が無精卵 宮内みの里
地 言い勝った有頂天から不眠症 及川竜太郎
天 あの時の誤算がバネの立志伝 内田 博柳

「良心」 大戸 和興 選

客 あの時の恩は忘れぬボランティア 深堀 秀子
客 良心が優先席で眠りこけ 津田 暹
客 衣食足りてだんだん高くなるモラル 江畑 哲男
客 九条も十九条も持つ日本 加藤ゆみ子
客 I C A N の信条生きる平和賞 伊藤 我流
人 傍観者君も負ってる罪一つ 深堀 秀子
地 良心の軽量測る裁判所 竹田 光柳
天 国境のハグに誠意を見極める 加藤ゆみ子

「健康」 岩堀 洋子 選

客 健康に育てと祈る泣き相撲 鈴木 正義
客 健康が何よりと知る年の功 徳田 正幸
客 健康を誇示して帰る見舞客 江崎 紫峰
客 保険証丈夫な顔が睨まれる 西潟賢一郎
客 おや此処も健康器具の粗大ゴミ 内田 博柳
人 ゴーギャンの描く夕ヒチの健康美 平野さちを
地 健康へ養生訓を読み返す 堀井 勉
天 健康の秘訣百歳百通り 笠井真理子

「乾く」 大矢 敦 選

客	オアシスを探して今日も杖が行く	伊藤三十六
客	居酒屋の隅で青雲干涸びる	廣島 英一
客	人情の機敏も干からびロボット化	竹田 光柳
客	ITの森でミイラ化する弱者	竹田 光柳
客	潤いが欲しいお肌の曲がり角	木崎 栄昇
人	干涸らびた脳が目覚める好奇心	内田 博柳
地	ベランダを満艦飾にする晴れ間	大竹 洋
天	壇上でコップの水の旨さ知る	岡田 秀夫

「湯気」 潮田 春雄 選

客	お湯が沸く次の台詞が浮かばない	森吉留里恵
客	D51の蒸気ロマンを吹き上げる	上村 脩
客	道祖神湯気を素早くキャッチする	井上 東風
客	飲み込んだ湯気で火傷のホトケ様	願法みつる
客	速報のテロップ湯気を立てている	落合 正子
人	おんなから母へ化粧を落とす湯気	和泉あかり
地	蒸したてのスッポンが跳ね回る	大竹 洋
天	語り部を語り部にする鍋の湯気	内田 博柳

百五十九号の課題は『抜く』。課題句二句と自由句三句をご投稿下さい。締切り八月末日です。